

ジャグラは一般財団法人日本情報経済
社会推進協会指定のプライバシー
マーク指定審査機関です



GS

No.797
2018
04

■ 巻頭企画

[シリーズ] ジャグラ賛助会員に聞く② リコージャパン(株)

— ドキュメントの価値を上げていく お客様の先のお客様にヒントあり

■ 特別企画

ドローン業界の現状と活用に向けて — 全国協議会事例紹介③ (株)くまがい印刷(秋田)

■ 連載・シリーズ

需要創出を考える⑧

— 作家との深い繋がり 特徴あるノベルティで差別化/(株)新潟印刷(新潟)

■ NEWSとお知らせ

ジャグラ第53回定時総会開催通知

第4回 ジャグラコンテスト参加者募集開始

— Illustratorが競技テーマに加わりました!

3.2 ショールーム見学会を開催

— リコーとキャノン PODワーキンググループ主催



グラフィックサービス 2018.4

編集・発行 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会
〒103-0001 東京都中央区日本橋人形町7-16
TEL 03-3667-2271 FAX 03-3661-9006
https://www.jagra.or.jp/

● Copyright 2018 JaGra
● 年間購読料 12,960 円 (会員の購読料は会費を含む)

GS

月刊
グラフィックサービス
No.797
2018
04

ジャグラ HP にて
本誌 PDF 版を公開中。
PDF 版は紙媒体より約1週間
早い毎月中旬頃に
ご覧いただけます。



なかむら通信

読者の皆様へ



ジャグリストの皆さん、こんにちは。会長の中村耀です。

年度末のお仕事はいかがだったでしょうか？ 厳しい経営環境の中で、良い悪いあったかと思いますが、新年度に際し、気持ちをリセットしていきましょう！

ジャグラでは4月の理事会で次期役員候補者の顔ぶれも発表されるでしょう。前年度から引き続き役員として残る方もいれば、新たに役員として就任される方もいます。新しい組織図も発表されます。新しい委員会もできるはずですよ。

いずれにしても全国ジャグラ会員から選ばれた新たな役員体制で、米メジャーリーグで活躍する大谷選手のように、攻守に優れた“強いジャグラ”をより具現化していきたいと思っております。

C・O・N・T・E・N・T・S

● 巻頭言

01 お客様に支えられて50年

—— ㈱清水工房 比嘉良孝

● 巻頭企画

02 [シリーズ] ジャグラ賛助会員に聞く②

リコージャパン(株)

—— ドキュメントの価値を上げていく お客様の先のお客様にヒントあり

● 特別企画

10 ドローン業界の現状と活用に向けて

—— 全国協議会事例紹介③ ㈱くまがい印刷 (秋田)

20 ジャグラコンテスト第3回 ファイナリスト11名に聞きました！

—— 敏腕オペレーターはコンテストをどのように捉えていたのか？

● 連載・シリーズ

24 需要創出を考える⑧

小出寛 切り絵の世界 平家物語絵巻

—— ㈱新潟印刷 (新潟)

● NEWSとお知らせ

06 3.2 ショールーム見学会を開催

—— リコーとキヤノン PODワーキンググループ主催

08 ジャグラ第53回定時総会開催通知

14 議事録抄録 3.23 予算理事会を開催

—— 予算額は実質昨年並み

22 第4回 ジャグラコンテスト参加者募集開始

—— Illustratorが競技テーマに加わりました！

26 業界の動き

クラウドファンディングで資金募集中！

—— ㈱新踏社 (奈良) 奈良公園の鹿と環境を守る雑貨開発のため

日印産連 デジタル印刷の調査報告会 ほか

28 ジャグラの最新スケジュールはHPでご案内！

29 ジャグラBB HOTNEWS

15 ジャグラ年間スケジュール

27 コラム

18 企業情報

28 事務局日誌と今後のスケジュール

お客様に支えられて50年

東京・三多摩支部長
㈱清水工房

比嘉良孝



■ 企業概要

当社は1969年(昭和44)に東京都八王子市散田町にて先代清水英雄が創業。創業以来、地域の企業や市民団体、個人のお客様の商業印刷物、事務用印刷物、出版印刷物などの製作を行ってきた。事業を始めて間もなく、創業者の清水が八王子市内の社会運動家・橋本義夫氏と出会い、そこで「ふだん記」運動に携わるようになる。この運動は庶民に普段着のつもりで生活記録をつづってもらう文章運動で、のちに全国的な広がりを見せる。

このような記録を本にまとめる機会が増えるにつれ、より多くの読者に本を届けるべく、1984年(昭和59)に出版・流通部門「ようらんしや揺籃社」を立ち上げ、印刷全般の業務に加え出版部門の強化を図る。

2006年(平成18)には、同市追分町(現在地)に移転。これを機に、オフセット印刷と製本の設備を廃止して協力会社へのアウトソーシング化に移行。同時に、オンデマンド印刷設備を導入し、現在に至る。

■ 自費出版

前述のように、これまで書籍を中心とする出版印刷物に多く携わってきた。中でも個人が本を出版する「自費出版」の割合が多いのが当社の特徴で、年間約40～50タイトルの自費出版を手掛けている。出版というと一部の人に限られていた時代に、庶民にこそ記録すべき体験や歴史があると積極的に後押しし、低廉ながらも質の高い自費出版製作を心がけてきたことが、現在の社業へと受け継がれている。

また、全国的な組織であるNPO法人日本自費出版ネットワークに設立時から所属。自費出版を社業の柱に据える全国の有志らとともに歩んできた経緯があり、同法人認定の自費出版アドバイザー有資格者が4名在籍。出版物に的確にアドバイスできる態勢を整えてきた。日本全国の自費出版物を顕彰する目的で創設された「日本自費出版文化賞」において受賞した作品もあり、今後も公益性、公共性の高い出版物の発行を心がけていきたい。

■ 書籍の販売・流通

出版業界は斜陽産業と囁かれて久しく、全国の書籍の総売上は年を経るごとに減少しているが、地域の出版物は一定の人気がある。歴史研究者や市民団体と協同製作した本や、お城シリーズ、歴史関連の本は好評を得ており、市内の主要書店への販売、流通面では書籍取次会社の㈱トーハン、㈱地方小出版流通センターと契約し、地味ながら書籍を書店へと流通させ、より多くの読者の目に触れるようにと努力を続けている。

■ その他の取り組み

八王子の話題を集めたフリーペーパー「はちとび」を年3回、各1万部を発行し、地域の情報発信にも注力している。2007年(平成19)の第1号から2018年(平成30)の第38号まで、累計37万5000部(第1号のみ5000部)を発行。今では、市民の皆様から特集内容に関する情報提供や配布への協力、協同事業による新たな取り組み、取材した方が本を出版——といった好循環も生まれており、今後も継続して、地域文化の発信の一端を担っていきたい。

2015年(平成27)には、「カレンダー 懐かしき八王子の風景」の製作・販売を開始。これまで市内の「風景」「鉄道」「祭り」などのテーマを設けて、昭和30～50年代頃の風景写真をセピア調に仕上げている。2016年(平成28)には、これまでの自分史マニュアルを改訂し、『自分史のやさしいつくり方』を製作。イベント(自費出版無料相談会など)やご来社いただいたお客様で出版を検討されている方へ無償で差し上げている。

また、近年は補助金事業へ積極的に挑んでいる。成績は振るわないが、自社の事業への理解が深まり、いずれは体力の強化、向上に繋がると信じ、継続していきたい。

■ 創業50周年

当社は2019年に創業50周年を迎える。詳細は未定だが、お客様への感謝を伝えられる記念事業を開催したいと計画之中である。これからも、お客様の要望に対して真摯に向き合い、丁寧にサポートする姿勢を大切に歩んでいきたい。

リコージャパン(株)

ドキュメントの価値を上げていく お客様の先のお客様にヒントあり



(株)グッド・クロス
ジャグラPODワーキンググループ
原田大輔 グループ長

リコージャパン(株)
PP 事業部 CIP マーケティング推進室
渡辺誠一 室長



リコー POD 機によるサンプルの説明を受ける
原田 POD ワーキンググループ長

ジャグラ賛助会員企業にお話を伺うシリーズ、第2回目はリコージャパン(株) (以下、リコー)。古くは青写真関連機材で、最近では POD 機メーカーとして当業界と密接なつながりを持ってきた同社プリンティングイノベーションセンターを、原田大輔 POD ワーキンググループ長が訪ね、渡辺誠一 PP 事業部 CIP マーケティング推進室 室長にお話を伺いました。

×

リコーが掲げる

Customer's Customer Success とは？

■原田 お忙しいなか、お時間を頂きありがとうございます。本日の対談の趣旨は、ベンダーの皆さんから私たちが学ぶことです。リコーさんのソリューションや製品の見せ方を知ること、顧客から言われたものを刷るだけではないビジネスの形が作っていかれると思います。まず、印刷市場の現状認識と、私たちの顧客である発注者の変化、そして POD が求められる背景をお聞かせください。

■渡辺 印刷市場全体は少しずつシュリンクしてお

り、今後も続くと思われま。そうした市場の中で、印刷物を求める発注者の意識も変化してきました。例えば、ビジネスサイクルの短縮化による一層の短納期、また、小ロット対応への要求が強くなっています。印刷会社様がそれらの需要を取り込む動きに即して、デジタル印刷の需要は逆に伸びています。

私たちの体感型印刷工場『リコーカスタマーエクスペリエンスセンター』ではリコーグループの印刷物を生産していますが、案件の数が増える一方で、一案件当たりの出力量は減っています。つまり、多品種小ロット化が進んでいるということで、この傾向はリコーグループだけでなく、国内の多くの企業で起こっている事象だと推測できます。

■原田 私たち印刷会社はこれまで大量に印刷することで収益を上げてきました。それが多品種小ロットの時代になっても、発注者からは印刷物 1 枚当たりのコストを下げる圧力が弱まりません。私たちはベンダーの方たちにもそうした要求をしてきました。このまま進んでいけば両者ともに先行きが見えません。

■渡辺 私たちを含めてベンダーが製品をより安く提

供するアプローチはもちろんあります。一方で、収益を上げていくためには、少しでも製品の付加価値を上げていくアプローチが同時に必要になってきます。従って価格の圧力に対しては、ドキュメントの価値を上げていくことが重要になってくると思います。

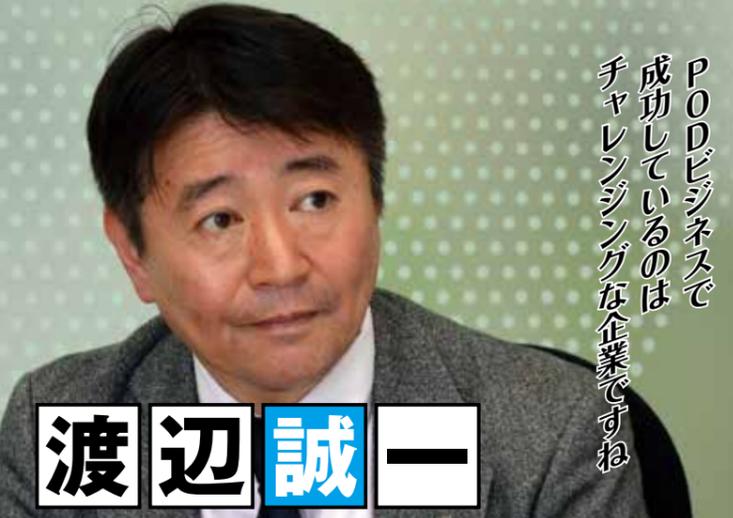
■原田 確かに付加価値を上げていく努力は必要ですね。ただ日本人のスタイルかもしれませんが、私たちはバリューをお金に変えていくことがすごく苦手です。提供する価格はそのままでバリューだけを付けて、「だから売れるんだ」という考え方が染み込んでいるような気がします。そのやり方はもはや限界だと思います。そこでリコーさんがビジネスコンセプトに掲げているのが『Customer's Customer Success』です。リコーさんはどういう視点で、お客様の先のお客様に価値を提供しようとしているのですか。

■渡辺 昨年、リコーは低価格のガジェットプリンタ『RICOH Ri 100』を発売しました。T シャツなどの布地に直接印刷できるプリンタです。例えば、そのプリンタを使ったサービスを楽しむ消費者の笑顔に思いをはせることが『Customer's Customer

Success』の考え方です。スペックを割り切り、お求めやすいライトな感覚の商品を投入することで、プリンタを利用する方が気楽に色々な場所でサービスを提供して喜ぶ人を増やし、新しい市場を創出して頂ければ、RICOH Ri 100 をたくさん使って頂くことにつながります。

ありがたいことに、RICOH Ri 100 の販売台数のうち 3 割が印刷会社様にご購入して頂いています。印刷会社様の新たな提供価値の一つとして、プリントした T シャツを消費者に販売したり、集客支援に利用したりと、自社のビジネスに布へのデジタル印刷を組み込もうとされているようです。印刷会社様のお客様が喜ぶ、もしくはビジネスが成功することが、私たちの『Customer's Customer Success』の一つの形です。お客様が成功すれば結果的に私たちも潤うということです。

■原田 RICOH Ri 100 は私が欲しい製品です。でも会社を買ってくれません(笑)。それというのも、社内的に採算が合うのかという話になるからです。弊社はフィリピンで事業を展開しており、スタッフ T



PODビジネスで
成功しているのは
チャレンジングな企業ですね

渡辺 誠一

シャツや現地へのお土産に使いたいと考えているのですが、業者に頼むとそれなりの時間とコストがかかってしまいます。

■渡辺 そう言って頂けるのは嬉しいです。オリジナルTシャツの多くが1500円から3000円の値幅で提供されています。RICOH Ri 100のインク代は1枚当たり50円程度です。私たちの試算では月に100枚程度を受注していけばペイできます。

■原田 私はサラリーマンの時代から創業して今まで、サービスと名のつく商売を60ぐらい作りました。そのうち9割方が失敗です(笑)。事業を始めて採算に乗せるのは難しいチャレンジなのですが、発注者に対してもっと単純に、Tシャツを作ってお客様に喜んでもらいましょうでいいんじゃないかとも思います。

■渡辺 私たちも製品戦略上、紙媒体の価値を上げるために用紙の対応力や特色対応、マシンとしての基本性能の向上を求めてきました。PODで新しい事業を展開して頂きたいという想いに加え、印刷会社様が事業ドメインを変えずにビジネスを伸ばして頂く、深耕して頂くという視点もRICOH Proの製品コンセプトに組み込んでいます。

ガーメントプリンタ「RICOH Ri 100」



スキルレス化とスキル化 二つの側面を持つPOD？

■原田 ジャグラーの中には次も軽オフに投資するの、か、そうじゃないかの分岐点にいる会員が多くいます。一方で10年前と比較すると、オフセット印刷がPODで迷う時代になったとも言えますね。

■渡辺 迷われる理由の一つに雇用環境の変化があると思います。オフセット印刷機のオペレータが不足しているという話も耳にします。また、PODにチャレンジしなければと危機感を持っている若いオフセット印刷機のオペレータの話も聞きます。オフセット印刷機からPOD担当に変わったあるオペレータの方は、自分で製版までコントロールできるのでやりがいがあると仰っています。オフセット印刷機のオペレータは直接、網点をいじれませんから。

PODはボタン一つで出力できますし、基本性能が向上したことで見当、濃度ともに追いつめるようになっています。スキルレス化が進む一方で、機械の性能を最大限に発揮するためにはスキルが必要です。PODは二つの側面を持つようになりました。

■原田 弊社でもオペレータが自分たちで機械の健康状態を確かめ、DTPのデータを修正しながら出力しています。より精度を求めるのは日本人の特性だと思われ、現場の人たちからけっこう細かいことを言われるので、リコーさんのサービスマンも大変ですね。

■渡辺 表裏の見当や色の濃度など、お客様の要求レベルがどんどん上がっています。ただ、気を付けなければいけないのは工数をかけるとコストが上がるということです。

■原田 なぜ『もっともっと』となるのでしょうか。十分な品質なのに『もっといけるはず』と追い込みながら、一方でもっと安くならないの？ ですからね。ところでPODで儲かっているユーザーは何をしているのでしょうか。

■渡辺 私たちのPODユーザー事例集『POD Success』では、すでに60近くの事例をまとめています。その中にはホワイトやクリアのスペシャルトナーを活用した同人誌印刷、パッケージ印刷や、長尺機能を利用した小ロットの三つ折りパンフレット印刷など、その企業によって色々な特色がありますね。

■原田 リコーさんから見てPODを利用して勢いのある会社の特徴はありますか。

■渡辺 逆に言うと、他社が買ったから、取り敢えずうちも買わなければと導入されると、あまり生産量が増えない傾向にあるように感じます。パイオニアのようにチャレンジングな企業は儲かっていらっしゃるように思います。『POD Success』ではそうしたユーザー様をたくさん集めています。

■原田 リコーさんは『POD Success』をはじめ色々な情報を発信していますね。

■渡辺 定期的にメルマガを差し上げていますし、RICOH Proのユーザー様にWebサイトで情報を提供する『RICOH Pro ユーザーズ プレミアムサイト』を開設しています。リコーユーザーだから色々な情報が入ってくると思って頂けるサイトを目指しています。

領域を広げるPOD 周辺ビジネスの取り込みを

■原田 PODは今後、どういう方向に向かうと思われませんか。

■渡辺 PODの裾野はさらに広がっていくと思います。利用される領域がどんどん増えていくでしょう。リコーとしては活用領域を広げていながら、省力化、スキルレス化や工数削減につながる手立てを提供して

PODユーザー事例集『POD Success』は
 同社サイト <https://www.ricoh.co.jp/> でも閲覧できます
 ▼グッドクロスさんの事例紹介号 (Vol.40)



顧客から言われたものを
刷るだけではないビジネスを
探っています

原田 大輔

いきたいと考えています。

■原田 PODが領域を広げていく中で、一般企業が印刷物を内製化するケースもあります。それがダメだというわけではなく、機械がスキルレス化しているので必然だと思えます。もはや普及機レベルでも十分な品質で、コピー用紙だけでなく、色々な紙が使えるようになりました。専門家の私たちはどこに企業内印刷との差異を見つけるべきなのでしょう。

■渡辺 先ほどの話に戻りますが、専門家の方にはより価値の高い印刷物を提供して頂くということだと思います。内製化ならではのメリットは、その場ですぐに成果物が得られることですが、運用にコストがかかりますので、一定以上のレベルのドキュメントやサービスを求める企業は外部委託を続けるでしょう。全ての企業が内製化に舵を切ることはないと思います。

やはりドキュメントの価値を上げていくことが近道になるのではないのでしょうか。一つの方法として、印刷や出力の周辺を取り込んでいく方法があります。制作部門をお持ちであれば、デジタルサイネージと印刷を絡めるなど、従来事業のリソースを活かして周辺に広げていくイメージかなと思います。お客様の先にあるお客様に、そのヒントがあるような気がします。

■原田 コンビニエンスストアが世に出てきた時に『11時まで開いている』、『年末年始も開いている』という価値を理解できない人が多かったと聞いています。しかも定価で商品販売していました。それが24時間になり、私たちは当たり前の業態としてコンビニを受け入れています。コンビニは時間を価値に変えたわけですね。

今日のお話を聞いて、私たちもそうした方向に向かわなければならぬと感じました。本日は貴重なお話をありがとうございました。

PODワーキンググループ

3.2 ショールーム見学会を開催

リコーとキヤノンの体感型ショールームを訪問

ジャグラ教育・技術委員会の POD ワーキンググループ（原田大輔グループ長）は、去る3月2日、ショールーム見学会の第二弾として、リコージャパンの『リコーカスタマーエクスペリエンスセンター（以下リコー CEC）』とキヤノンの『カスタマーエクスペリエンスセンター東京（以下キヤノン CEC）』を訪問しました。

リコーCEC



ケーブル類を天井に配する
ファクトライン



様々なサンプルを確認する参加者一行



RICOH Pro VC60000 の
高品質な印刷サンプルに関心が寄せられた



リコー CEC の主力機 RICOH Pro C9110



高い生産性と高品質を両立させた
インクジェット機 RICOH Pro VC6000



紙とネットを融合させたビジネスなどを紹介した

キヤノンCEC



ロール式高速インクジェット機の生産性を体感



ホリゾンのデジタル印刷対応製本ライン
スマートバインディングシステムとの連携を実演



imagePRESS C10000VP で
印刷からインライン中綴じ製本までを実演



A3 カットシート型インクジェット機
Océ VarioPrint i300

リコー CEC 自社印刷センターのノウハウ提供 ラグビーチームの集客事例紹介

リコーのショールームは体感型の自社印刷センターで、POD 機を用いて約 400 アイテムに及ぶリコーグループの社内印刷物を生産しており、5S 配線やカメラを利用した作業効率化の説明を受けました。

作業現場は、天井からつるされたバーを伝って電源やネットワークケーブルが設けられていました。これはファクトラインといわれるもので、床上に配線がないため、動線がスムーズになるほか、床を剥がしてケーブルを這わせる必要がありません。マシンの配置換えが円滑にできるため、例えば、名刺の繁忙期である1月や4月は POD 機の近くにカードカッターを配置した専用ラインを組むなど、柔軟に対応できるメリットがあるそうです。

また、カメラと画像認識技術を利用して通常作業と異なる動作が発生した場合の通報システムで、用紙の積載ミスなどを検知することができること。カメラで撮影された動画は保存され、ミスの原因究明や改善活動などに利用することが可能です。

一行は CEC 内の作業状況に触れたほか、高速インクジェット機『RICOH Pro VC60000』の品質と生産性を体感。ホリゾンのスマートバインディングシステムによる製本までのワークフローを見学しました。

見学会終了後のセミナーでは、紙媒体とデジタル媒体をつなぐ『RICOH Clickable Paper』を活用した集客の実例が紹介されました。スマホアプリ『RICOH Clickable Paper』をダウンロードし、スマートフォンなどのカメラで紙に印刷された絵柄を読み込むと、Web サイトに呼び込むというもの。接続した Web サイトに動画やポイントカード、ゲームなどを仕掛けることで、購買意欲や集客効果を高める仕掛けで、リコーのラグビーチーム『ブラックラムズ』の練習試合の集客から当日の来場者向けイベント、練習試合後の地元飲食店への誘導までの事例が紹介されました。

また、2月に発表した新カラー POD 機『RICOH Pro C7200』の説明では、5色目にホワイトトナー、クリアトナー、ネオンイエロー、ネオンピンクが利用できるほか、ホワイトトナーの先刷りに対応する高い表現力を紹介。自動で色や見当を調整する機能など、POD 機としての完成度の高さが PR されました。

キヤノン CEC 異なる判型の本を連続生産 インクジェットの可能性を体感

キヤノンのショールームでは、概要とワークフロー、展示機器が紹介された後、施設内を見学。その後、発売が予定されている新製品が説明されました。ここでは主として高速のインクジェット機を中心に、大判インクジェットプリンタ、カットシートの POD 機を展示した商業印刷機の体験施設となっており、請求書やダイレクトメール、書籍、マニュアル、新聞、カタログなどの印刷物の受注から編集、印刷、後加工までのワークフローを、実機を使って体験することができ、顧客の実際の印刷データや用紙による検証も可能となっています。

実機見学ではロール紙タイプ的高速インクジェット機『Océ ColorStream 6000 Chroma』の生産性と品質が紹介された後、ホリゾン無線綴じラインを用い、判型の異なる本の連続生産が披露されました。その後、カットシートタイプの POD 機『imagePRESS C10000VP』で、A4 / 8 ページの中綴じカタログ制作のデモを見学。昨年発表されたカットシートタイプのインクジェット機『Océ VarioPrint i300』のデモでは、その高速両面出力に参加者が関心を寄せていました。

その後のセミナーでは、事例として、東洋美術印刷（東京）の高速インクジェット機による保険約款や学習教材などのフルデジタルブックオンデマンドシステム、Pii（米国）の『Océ VarioPrint i300』による 20% 生産性向上の導入効果、朋栄ロジスティック（埼玉）の印刷管理システムとワークフローシステムにより印刷工程を自動化した書籍の少数生産が紹介されました。また、今後発売が予定されている高速インクジェット機『Océ ProStream 1000』、ブランケット上にインクジェットヘッドから吐出されたインクで画像を形成し、中間胴を利用して用紙に転写する印刷方式の『CANON VOYAGER』が動画で説明されました。

見学会終了後に開催された懇親会の席では、リコージャパン、キヤノンの社員の皆さんも交えて、当日の感想を共有するとともに、POD の将来性などについて意見が交わされていました。

平成 30 年 4 月 1 日

会員各位

一般社団法人日本グラフィックサービス工業会
会 長 中 村 耀
(公印省略)

一般社団法人日本グラフィックサービス工業会 第 53 回定時総会開催通知

冠省 定款第 14 条の規定にしたがい、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会第 53 回定時総会を下記の要領によって開催いたしますので、ご案内いたします。

草々

記

1. 日 時 平成 30 年 6 月 2 日 (土) 午後 1 時 30 分～
2. 場 所 福岡県・ホテル日航福岡
3. 議 題 第一号議案 第 53 年度事業報告書の承認に関する件
第二号議案 第 53 年度収支決算書の承認に関する件
第三号議案 第 54 年度事業計画書の承認に関する件
第四号議案 第 54 年度収支予算書の承認に関する件
第五号議案 関東複写センター協同組合との協議に関する件
第六号議案 任期満了に伴う役員改選に関する件
第七号議案 その他に関する件

以上、ご通知申し上げます。

補足事項

1. 総会資料の送付 会議の目的たる事項(議案)は変更する場合があります。会議の目的たる事項及びその内容(総会資料)をもって最終案内とさせていただきます。
2. 動議の提案手続き 会員は、所属支部長の承認を得て、総会に議案または決議案を提出することができます。この場合、支部長は、その内容を総会開催日の 10 日より前に会長あて書面をもってあらかじめ提出しなければなりません。(総会運営準則による)
3. 委任状提出のお願い ジャグラ定時総会の開催方法は代議員制ではありません。全会員が出席(書面出席も有効)して開催されるものになっていますので、総会の委任状を提出して下さいますようお願いいたします。
是非、委任状を提出下さるようお願いいたします。

以上

委任状は本誌に同封いたしますので是非ご利用ください



ドローン業界の現状と活用に向けて

(株)くまがい印刷(秋田)
—ジャグラ全国協議会の事例発表より

昨年のジャグラ全国協議会で行われた会員企業による事例発表を誌上紹介する短期連載・第3回目(最終回)は、秋田の(株)くまがい印刷・熊谷健司専務取締役による「ドローン業界の現状と活用に向けて」です。本事例発表の様子は、現在、ジャグラBBにて配信中ですので、ここでは概要のみを紹介いたします。詳細は番組をご視聴ください。

×

事業化への経緯

- ①同社は商業印刷中心の印刷事業がメインである。2014年半ばにDJI社のPhantom 2というドローンを購入したが、その魅力にはまり、ビジネスに活かせないかと数年前に事業部を立ち上げた。
- ②現在、空撮サービス、イベント企画・運営、ドローンの販売・レンタル・コンサルティング、(飛行に係る航空法絡みの)許可申請支援などのサービスで、「ドローンを用いた地域活性化」を念頭に置いて試行錯誤している。

秋田ドローンコミュニティ

- ①秋田ドローンコミュニティの事務局長を務めている(事務局も同社内)。同会は、2016年7月にドローン特区である秋田県仙北市において、(株)skyer(鳥取)による一日講習会をきっかけに結成。気軽に情報交換やディスカッションできる場が必要と感じ、Facebookのコミュニティサイトとして結成された。会員数220名超。
- ②地方自治体との協定を締結。イベントや飛行練習会を通じてドローンの普及、啓発活動を行っている。(秋田市と災害協定の締結、秋田県仙北市と近未来技術協定の締結、大型ショッピングセンターでの仙北市ドローンフェア運営、ドローンテクニカルチャレンジ運営等)

実績紹介

- ①自治体との災害協定締結——秋田市総合防災訓練に参加。大規模地震を想定した訓練。熊谷の指揮によりドローンを使った地域住民の避難状況観察訓練を行う。訓



練では災害時のドローン情報収集の有効性を確認。地域住民への啓発活動としてドローン展示を実施。モニターでのライブビューや救援物資の投下デモを行った。

- ②日本初! ドローンVR空中さんぽ——ドローンで空撮し、その映像をリアルタイムでヘッドマウントディスプレイに映し出し、VRによる疑似飛行体験を提供した。ドローンの飛行はプログラムによる自動航行。その後、太平山空中さんぽ実証実験、角館空中さんぽ実証実験、太平山空中さんぽ、イオンタウン郡山空中さんぽ、南通り空中さんぽなどを実施。
- ③千秋花火空撮プロジェクト——秋田市中心市街地活性化イベント「千秋花火」を空撮。映像はYouTubeで中継配信、当日の再生回数は3000回以上。花火よりもドローンを見学に人が集まってしまった。人ごみによる電波障害を確認。
- ④Jリーグ初! ブラウブリッツ秋田・戦術分析実証実験——ドローンはスポーツシーンでも活用できるのではないか。好調を続けるチームの後押しになればと企画。
- ⑤ドローン練習会開催——誰でも気軽にドローンの練習や体験をできる場として体育館施設や廃校を活用したドローンの練習会を実施。2017年3月より毎月一度以上開催し、現在13回を数える。参加は無料。秋田市条例では体育施設でのラジコンが禁止されていたが、その一文を削除。ドローンを中心として、それぞれの操縦技術の研鑽、情報共有、コミュニティ、ネットワーク作りの場として毎回多くの参加者で賑わう。

ジャグラBBで好評配信中!【会員限定番組】
『ドローン業界の現状と活用に向けて』
～プレゼン資料もダウンロードできます～

当日はその他、ドローン業界の現状、各分野での活用事例など一般的な情報も紹介されましたのでぜひご視聴ください。

[トップページ>セミナー>経営者向け]に分類されています



TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。

東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月～金) 9:00～17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
http://www.lithmatic.net

月刊
グラフィックサービス
No.797
2018
04

月刊
グラフィックサービス
No.797
2018
04

3.23 予算理事会を開催

予算額は実質昨年並み

ジャグらは3月23日、ニッケイビルにて予算理事会を開催し、次年度予算を承認したほか、次年度の事業推進体制を検討した。また、7月に開催するIGASにてジャグらの事業を紹介することにした。

×

第一号議案 スケジュールに関する件

省略（巻末スケジュールを参照）

第二号議案 第53回定時総会の議案に関する件

省略（8ページの総会開催通知をご覧ください）

《検討の経緯》

質問・意見を諮ったところ、異議なく満場一致で承認した。

第三号議案 第54年度事業と役割分担の決定に関する件

第54年度の事業と役割分担を資料(省略)の通り決定したい。

〔主な意見〕

- ・危機管理委員会とBCPはどう違うか？
→危機管理委員会は、実際に災害等が発生した場合に動く。特に財政的な面を含めて。BCPは会員のための通常の心構えを説くような活動をする。
- ・ジャグらBBは経営基盤の所管が良い。
→ジャグらBBはメディアとして機能する。ただし所管が必要なので、このようにしている。
→ジャグらBBも機関誌も、各委員会との情報共有が必要
- ・事業の切り分けを先にしたらどうか？
- ・PODは当初、経営でする予定ができなくて教育・技術になった経緯がある。今回、ビジネス推進になるのはどうなのか？ 継続性がない。
- ・M&Aはどこの所管か？
- ・IoTは助成金ありきではなく、何ができるか、何が必要かの議論が先。
- ・事業7つは多い。
- ・東京グラフィックの事業構成とも整合性が欲しい。
- ・事業の見える化が必要。

《検討の経緯》

第三号議案は、会長・専務理事に一任することにし、次回理事会までに公表することにし、承認した。

第四号議案 第54年度事業計画(案)の決定に関する件

〔提案内容〕 省略＝総会資料にてご確認ください。

《検討の経緯》

質問・意見を諮ったところ、異議なく満場一致で承認した。

第五号議案 第54年度収支予算(案)の決定に関する件

〔提案の概要〕

経常収益計 1億3048万7876円

経常費用計 1億2603万0156円

差し引き 445万7720円の黒字

※昨年は「内部取引消去」を予算では入れなかったため、収支とも1100万円前後の差異が出ているので、実質的には同レベルである。詳細は総会資料にてご確認ください。

《検討の経緯》

質問・意見を諮ったところ、異議なく満場一致で承認した。

第六号議案 第54年度年間スケジュールの決定に関する件

資料（次ページ囲み）に基づき、スケジュールを提案した。

《検討の経緯》

質問・意見を諮ったところ、異議なく満場一致で承認した。

第七号議案 ジャグら文化典福岡大会に関する件

ジャグら文化典福岡大会より石井謙二実行委員長が出席し、大会PRと広告出稿の要請をした。

《検討の経緯》

質問・意見を諮ったところ、異議なく満場一致で承認した。

第八号議案 次期ジャグら文化典開催地に関する件

平成31年の文化典は関東地協での開催であるが、平成32年の開催地はどうするか？ 地元を持ち帰り、11月の理事会にてご回答願いたい。

《検討の経緯》

今回の要請に対し、四国地協は、きたる5月12日に地協総会があるので、そこで検討して回答したい旨を発言し、第八号議案は満場一致で承認した。

第九号議案 IGAS 出展パネルの作成に関する件

きたる7月26日～31日に開催するIGASにて、日印産連が出展する（名称はJPEX2018／ジャグらから早坂理事を派遣）。そのなかで10団体の事業を紹介することになり、ジャグらにもパネル作成依頼があった。

広報委員会で検討したが、「年賀状デザインコンテスト」「ジャグらコンテスト」「DTP教室」をパネル紹介で、「ジャグらBB」を動画で紹介することにしたい。

《検討の経緯》

早坂理事からも補足説明があり、満場一致で承認した。

第十号議案 契約保養施設との契約に関する件

佐藤副会長より保養施設契約の提案があった。2月9日の運営基盤戦略会議にて検討し、割引率をあげてもらおうよう中村会長預かりになっていたが、このほど合意に至ったため契約締結をした。

《検討の経緯》

質問・意見を諮ったところ、異議なく満場一致で承認した。

なお、議決の際には佐藤副会長は議場より退出し、議案の採決には参加していないことを付記する。

第十一号議案

省略。

《検討の経緯》

議場に質問・意見を諮ったところ、他に発言はなく、6月2日定時総会資料までは公表しないことを含めて、第十一号議案は満場一致で承認した。

第十二号議案 その他の件

◎プリントネクストについて（報告）

佐藤元理事よりプリントネクストについて報告があった。

◎SPACE-21 総会について

佐藤元理事より報告があり参加を呼びかけた。

◎作品展について

作品展について、出品を呼びかけた。

◎故増田光仁理事のお別れ会

故増田理事のお別れ会の日程について報告があり、周知した。

◎全国協議会の内容について

2月9日（金）の運営基盤戦略会議にて、きたる11月に開催する全国協議会の内容を考えておくことになっていたため、委員の考えを披露していただいた。

・印刷機メーカーの話を、各15分程聞く。

・IoTが組織図に出ているので、その情勢等を考える内容で。

以上

●出席理事・監事

会 長 中村耀

副 会 長 熊谷正司、樋貝浩久、菅野潔、佐藤順、岩下登、池邊寛

専務理事 沖敏三

常務理事 守田輝夫

理 事 大橋邦弘、尾形文貴、岡澤誠、野田晃司、早坂淳、齋藤秀勝、青木滋、中村盟、吉岡新、笹岡誠、原田大輔、伊藤政美、谷川聡、佐藤元、山本耕司、宮崎真、中越忠男

監 事 山崎泰、池上晴英

●欠席理事・監事

理 事 柳田道

監 事 前沢寿博

Schedule

委員長会議（正副会長＋委員長）

理事会

IGAS2018

役員推薦準備会

関東地協大会

総務委員会

日印産連式典

SPACE-21 協議会

旧：常任役員会

自費出版表彰式

東グラフエスタ

理事会

全国協議会①

全国協議会②

役員推薦委員会

委員長会議（正副会長＋委員長）

理事会

日印産連新年会

東グラ新年会

旧：常任役員会

予算理事会

期末監査

決算理事会

旧：常任役員会

総会

7月20日 金曜 午前11時～

7月20日 金曜 午後2時～

7月26日～31日

今年度なし

今年度なし

9月12日 水曜 午後1時～

9月12日 水曜 午後3時30分～

9月8日 土曜～9日 日曜

今年度なし

10月6日 土曜 午後2時～

10月6日 土曜

11月9日 金曜 午前11時～

11月9日 金曜 午後1時30分～

11月10日 土曜 午前9時～

今年度なし

1月8日 火曜 午前11時～

1月8日 火曜 午後1時～

1月8日 火曜 午後4時30分～

未定

今年度なし

3月22日 金曜 午後2時～

4月25日 木曜 午後3時～

4月26日 金曜 午後2時～

今年度なし

6月8日 土曜 午後予定

ニッケイビル

ニッケイビル

東京ビッグサイト

ニッケイビル

ニューオータニ

甲府

アルカディア市ケ谷

都立産業貿易センター台東館

東京ドームホテル

東京ドームホテル

場所未定

ニッケイビル

ニッケイビル

ホテルオークラ

東天紅上野

ニッケイビル

ニッケイビル

ニッケイビル

宇都宮

月刊
グラフィックサービス
No.797
2018
04

月刊
グラフィックサービス
No.797
2018
04

ジャグラコンテスト第3回 ファイナリスト11名に聞きました!

敏腕オペレーターはコンテストをどのように捉えていたのか?

昨年開催されたジャグラコンテスト第3回の第1次審査で上位を獲得し、第2次審査受験者に選ばれた“ファイナリスト”。ジャグラが誇る敏腕オペレーターである皆さんに、日頃の業務内容や心がけていること、コンテストに参加した感想を伺いました。

×

Q 業務で扱っている制作物の内容を教えてください。

- ◎論文、書籍など文字中心の頁物……6名
- ◎パンフレット、チラシ、ポスターなどの端物……3名
- ◎カタログ、広報誌など文字写真が入った頁物……3名
- ◎名刺……1名

Q スキルアップの参考にしている情報は?

- ◎InDesignの勉強部屋(Webサイト)……7名
- ◎神速InDesign(書籍)……2名

Q DTPオペレーターとして、普段の制作業務で心がけていること、めざしているオペレーター像などがありましたら教えてください。

- ◎恥ずかしい誤植はしない(笑)
- ◎とにかく刷り直しになるミスを出さないこと。
- ◎クライアントが求めていることを、営業説明および原稿類から読み解き、反映させるようにしている。

- ◎プロとして、「誰がやっても同じ」と思われるような結果にはならないようにしたいと思っています。
- ◎差し替え時に効率よく作業ができるようスタイルの作り方をよく考える。
- ◎スタイルを適用した際に予期せぬ変換がされないように、よく確認する。
- ◎理想は、どのような要求でも“プロの仕事”として当たり前のように淡々と作業をこなすオペレーター。
- ◎DTPオペレーター歴7年目くらいになりますが、いまだにミスをしてしまいます。しかし、失敗やミスはチャンスと捉えています。同じミスを他の人にさせないようなやり方を実践できれば、自分自身だけでなく社内オペレーター全員が成長できると考えています。
- ◎社内ではあまり仕事が速い方ではないので、クオリティでは負けないようにしようと思っています。

Q コンテスト参加のきっかけは?

- ◎会社命令……6名
- ◎スキルアップのため……1名

Q 第1次審査課題についての感想をお聞かせください。

- ◎バラエティに富んだ内容で、いろいろな制作物を作ることができて楽しかったです。
- ◎小問形式で、ジャンルが豊富なほうが勉強になるので、

- 今回のような課題でよかったです。
- ◎使用したことのない機能が必須の課題があり、調べながらだったので大変でしたが、勉強になりました。
- ◎今回でコンテスト参加3回目になりますが、問題に指定された仕事発注の前提条件がわかりやすくなりました。普段の仕事では、ここまできちんとした材料を与えられることはありません。お客様からふんわりした要望と、データを渡され、適当にレイアウトしてデザインして〜という仕事がほとんどですので、コンテストの課題のように計画的に仕事ができたらいいなと思いました。
- ◎何を問われているのかが捉えやすいように考えられた問題で、実際の仕事でありそうな状況などいろいろと工夫されていると思いました。
- ◎自分の得手不得手ははっきり出てしまって、面白いやら、情けないやらでした。
- ◎前回コンテストの第2次審査の課題は、正直実際の現場作業の実態からかけ離れたテクニックを使いこなさなければならぬ内容でしたが、今回は問題作成に第1回と第2回のInDesignマイスターの方が関わったこともあり、実際の現場作業に即して、内容としては非常に良かったと思います。

Q 第2次審査課題(A4縦/4C/2ページの雑誌紙面修正及びデータ処理)についての感想をお聞かせください。

- ◎問題を理解する時間をあと10分くらいもらいたかったです。
- ◎時間制限もあったので焦ってしまって全部できなかったのが悔しいです。
- ◎とても面白い課題でした。ここはどのように作ったら良いデータになるか、時間の中で考え、作り込んでいくのが楽しかったです。
- ◎昨年第2次審査に参加しましたが、昨年より問われていることがわかりやすく、格段に取り組みやすかったです。分量もちょうど良いと思いました。
- ◎どちらかというと苦手の課題だったので、“なんだか大変だった”という印象です。
- ◎今回の第2次審査課題は昨年までと違い、問題文と指定紙を見たとき最初から土台となるデータが作られていて、これは想定外でしたので驚きました。
- ◎「作り込み」が勝負の分かれ道になると思い、自分的には作り込んだつもりでしたが、思いの外点数が伸びず、他のファイナリストの方々が私の何倍も上手だということ

- とを思い知りました。
- ◎試験時間120分に問題文の内容確認時間が含まれず、別枠で確認の時間が用意されたのは心に余裕があるので良いことだと思います。次回以降も続けて欲しいです。
- ◎今回の第2次審査で出題されたデータ修正の課題は、オペレーション技能を見るには最適な出題方式だったと思います。

Q 今後のコンテストに期待することは?

- ◎もしもIllustratorコンテストだったら……私はまったく不得手なのですが、どんな問題が出されるのかは非常に興味があります! InDesignよりは参加者も増えそうな気がしますし、いろんな発見があるかもしれないですね。
- ◎全国的に知名度が上がって、上位入賞が社会的にも評価されるようになればいいなと思います。
- ◎上位入賞者の紹介記事(普段どんな仕事をしているか、どんな職場か等)を機関誌に掲載すれば、上位入賞した企業の宣伝になるかと思っています。
- ◎今後コンテストに参加できなかったとしても、このコンテストは私だけでなく、全国にいるDTPオペレーターのスキルや、知識を向上させるいい機会になると思っています。ただ、毎年開催されると仕事に響いてしまうので、オリンピックみたいに4年に1回ぐらいの頻度だったら嬉しいですね。また、参加者は印刷会社ばかりですが、学生や印刷会社以外でもDTPをする方はいますので、参加者を増やしてこのコンテストのレベルや知名度が上がればいいなと思います。
- ◎コンテスト挑戦を通じて、知らなかった機能を調べたり、基礎を見直したり、InDesignやDTPと向き合う良い時間をいただきました。今後もたくさんの方のオペレーターの方にとって、コンテストが日々の仕事を見つめ直すきっかけになってくれることを期待します。
- ◎たくさんの方に参加してもらい、なおかつ印刷業界全体の意識の向上、スキルアップの底上げができると、影になりがちなこの業界を盛り上げることができるのではないかと思います。賞に入ることで自信につながり、それが仕事への意欲となればうれしいことだと思います。若い人材だけではなく、働いている方皆さんが向上心をもって行けるようなコンテストづくりを期待いたします。

——ファイナリストの皆様、ありがとうございました!

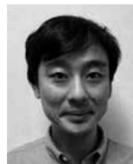
ご回答いただいた
ファイナリストの
皆さん



日経印刷(株)/東京千代田
大貫 恵理



陽光社印刷(株)/福島
富永 朋子



(株)サンワ/東京千代田
西野 学



電算印刷(株)/長野
加々美真絹



(株)北斗プリント社/京都
清水 利恵



大村印刷(株)/会員外
渡邊 陽子



(株)東北プリント/宮城
渡部 高志



(株)ニシキプリント/広島
伊勢川 綾



(株)ニシキプリント/広島
大石 理恵



電算印刷(株)/長野
百瀬喜久美



(株)めぐみ工房/新潟
津端 優

トップオペレーター発掘プロジェクト ジャグラコンテスト第4回 Illustrator・InDesign 参加者募集開始

応募締切6月8日(金) お早めにお申し込みください!

Illustratorが
競技テーマに
加わりました!

「トップオペレーター発掘プロジェクト」の名のもと、2015年から新たな事業としてスタートしたジャグラコンテスト。今年で第4回を迎えるジャグラコンテストは、IllustratorとInDesignの2種目で実施します。Illustrator、InDesignそれぞれの種目において第1次審査で優秀者10名を選出し、第2次審査実技試験でトップオペレーターを決定します。DTPオペレーターの皆様のご応募お待ちしております!

×

ジャグラコンテスト第4回の特徴

●Illustratorが競技テーマに

昨年、ジャグラ会員企業を対象として実施したDTP制作環境調査において、導入率が最も高かったIllustratorが競技テーマに加わりました。さまざまな制作業務に幅広く使用されるIllustratorですが、ジャグラコンテストでは印刷物制作スキルに特化した課題を出題します。

※おひとりの方がIllustrator、InDesign 2種目にダブルエントリーできるよう、第1次審査の競技スケジュールをずらして実施します。

●採点基準と結果を明示したレポートを返却

参加企業の経営者およびオペレーターが自身のスキルを客観的に把握できるよう、第1次審査参加者全員に個人別採点レポートを返却します。個人別レポートには課題の採点項目と採点基準を一覧表に掲載するとともに、各項目

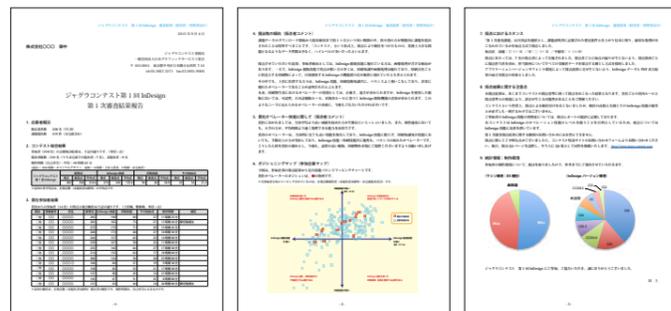
の採点結果を○△×で明示。さらに、企業のお申し込み代表者へは企業別分析シートを返却し、今後のスキルアップに役立つヒントをアドバイスします。

●オペレーター同士の交流の場でもある2次審査

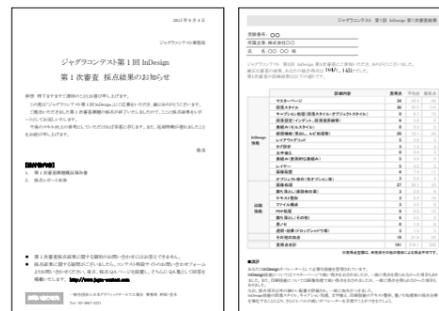
毎年、第2次審査終了後にファイナリスト交流会を開催。ほぼ全ファイナリストが参加し、実技試験の緊張を解いて楽しいひと時を過ごしています。参加者からは「同業他社のオペレーターと話す数少ない機会をもつことができた」「上には上がいることを実感しよい刺激を受けた」と、好評をいただいております。



第1次審査 管理者・経営者向け採点レポート



第1次審査 受験者向け採点レポート



実施要項

●応募期間

2018年4月2日(月)～6月8日(金)

●応募資格

- ・ジャグラ会員企業に所属するDTPオペレーター
- ・ジャグラ会員の紹介を受けた会員外企業のDTPオペレーター
- ・ジャグラDTPスクール受講生

●応募方法

※下記特設サイトよりご応募ください。

<http://www.jagra-contest.com/>

※応募にはメールアドレスが必要です。

●参加費(税込)

◎ジャグラ会員	1種目 1万円 2種目 1万6000円
◎会員外/スクール生	1種目 1万2000円 2種目 2万4000円(割引無)

※原則として企業単位でお申し込みください。

●競技日程

◎Illustrator

- ・第1次審査課題データ配布開始 6月15日(金)
- ・第1次審査課題提出締切 7月17日(火)
- ・第1次審査結果発表 9月下旬
- ・第2次審査 10月13日(土) 10:30～予定
- ・総合結果発表 10月下旬

◎InDesign

- ・第1次審査課題データ配布開始 7月6日(金)
- ・第1次審査課題提出締切 8月7日(火)
- ・第1次審査結果発表 9月下旬
- ・第2次審査 10月13日(土) 14:00～予定
- ・総合結果発表 10月下旬

●表彰

※優秀賞、特別賞

※11月9日(金)東京ドームホテルで開催されるジャグラ全国協議会席上で第1位表彰式を行います。

●競技内容

◎第1次審査

※DTPおよび印刷に関する知識を審査するための制作課題を出題します。コンテスト特設サイトから問題文および課題データをダウンロードし、問題文の指示にしたがって課題を制作し、締切までにデータをコンテスト特設サイト上にアップロードしていただきます。

※提出データの採点結果は、後日企業宛に返却いたします。上位得点者には別途第2次審査受験のご案内をいたします。

◎第2次審査

※第1次審査において選出された上位10名により、ジャグラ本部DTPスクールで実技試験を実施します。スクールの共通PC環境のもと、120分の制限時間内にDTPの制作課題に取り組んでいただきます。

※課題データは即座に回収し、厳正なる審査の上、第1次審査と第2次審査の合計点により総合順位を決定します。

コンテスト特設サイト・Facebookページ

※特設サイトでは、応募フォームや審査課題のダウンロードをはじめ、募集要項、Q&Aなど、参加者向けの詳細情報を掲載します。

※Facebookページでは、特設サイトの更新情報やコンテスト事務局からのお知らせを掲載します。

●特設サイト

<http://www.jagra-contest.com/>

●Facebookページ

<https://www.facebook.com/jagracontest>



昨年の第2次審査の様様



昨年の表彰式にて 第一位の日経印刷株大貫さんと中村会長

シリーズ 需要創出を考える⑧

印刷需要が低迷し、価格競争が激化する経営環境の中で、ジャグラー会員企業はどのようにして活路を見出そうとしているのかを探る本シリーズ。第8回目は昨年のジャグラー作品展受賞企業の中から、新潟県支部・(株)新潟印刷さんの事例をご紹介します。

事例9 作品展 / 出版印刷物部門 経済産業省商務情報政策局長賞

『こいでしゅう 小出寛 切り絵の世界 平家物語絵巻』

～作家との深い繋がり 特徴あるノベルティで差別化～

(株)新潟印刷 (新潟)

作品で繋がりを深める

この度は、平成28年度ジャグラー作品展におきまして、小出寛先生の「切り絵の世界 平家物語絵巻」が経済産業省商務情報政策局長賞をいただき誠にありがとうございました。

弊社は新潟県新潟市で創業、今年で40年目の総合印刷会社です。営業部門、制作部門、工務印刷部門で印刷に関わる案件を受注から納品まで一貫体制で承っております。

小出先生と弊社代表取締役の水野は出身校を同じくする竹馬の友という間柄であり、作家活動を始められた小出先生を応援したいという強い思いから仕事においてのお付き合いも始まりました。したがって先生の作品集、関連作品は全て弊社で印刷させていただいております。

作品集の印刷は2冊目となります。今回の作品では「平家物語」をテーマとして制作をされており、このような一貫したテーマによる作品集の出版は、先生の創作活動の中でも大きな意味のあるものとなったとうかがっており、弊社としてもそれに関わることができたことを大変うれしく感じております。

切り絵作品の大きさは一般的にはB3サイズ程で、肉眼で見ると作品の鮮やかで繊細な仕上がりは息をのむ美しさです。そのような作品の魅力を再現するため、印刷工程では冊子の台割からレイアウト、全体のカラーのご提案など、さまざまな打ち合わせを何度も繰り返すことで理想へと近づけていきます。その中でも最も注力している点は、切り絵作品本来の色彩に合わせるための印刷の発色となります。今



受賞作『小出寛 切り絵の世界 平家物語絵巻』

度も先生の思い出が深い記念すべき作品集を実際の色に合わせるため、現場では色調整をよりシビアに努めました。

特徴あるノベルティで差別化

作品集以外にも、先生の切り絵を採用した弊社オリジナルのポスターカレンダー（A1サイズ）や紙ファイルなどノベルティグッズを制作し、お客様をはじめ関係先様に対し、切り絵作品と弊社社名の認知拡大を同時に目指しております。

弊社は印刷に関して一通りの業務を行っておりますが、お客様から見れば一般的な印刷会社のひとつとして認識されるかと思えます。このような状況において、伝統的で美しい小出先生の切り絵作品と弊社のイメージの連動は皆さまの記憶に強く残り、社名を覚えていただくきっかけになるなど、お客様や関係先様とのコミュニケーションを育む



コースター

小出氏の作品を使用したノベルティグッズの数々

小出氏のプロフィールおよび作品は下記同氏公式サイトでご覧いただけます <https://kirieshu.com/>

手助けにもなっております。ポスターカレンダーではお客様の事務室にご掲示いただくことも多く、「月が変わり新しい作品が現れるのを毎月心待ちにされている社員さんがいる」という話をうかがい、大きな喜びと共に誇らしささえも感じております。切り絵作品による印象付けが功を奏し、弊社への発注が拡大したケースもございます。

日本の伝統美をもっと世界へ

さらに切り絵は日本の伝統的な文化でもあり、特に小出先生の切り絵は外国人の方々にも高く評価され、ニューヨークで行われた個展も大盛況とうかがっております。弊社のお客様でお酒に関する活動をされている協会様の世界大会（開催地：東京）においては、日本的な切り絵のコースターや記念ポストカード、折り紙などを制作し、外国からのお客様に大いに満足いただきました。インバウンド



ハガキ



紙ファイル

で外国人旅行者数が年々増加し、日本から世界へとさまざまな情報を発信する機会が今後益々増えていくことが予想されますが、弊社でも小出先生の切り絵を日本が誇る芸術作品のひとつとして、先の世界大会のような機会を活かし積極的にアピールができればと考えております。

また小出先生の現在の地元である東京都多摩地区で、新聞販売店が地元のお祭りや名所を紹介する切り絵のポスターカレンダーの制作依頼を受け、印刷のご依頼をいただきました。地域の切り絵に関して印刷とは直接の繋がりはありませんが、オリジナル切手も販売しご好評をいただいております。

今後も私たちは人と人の繋がりを大切にその思いにまで心を配り、自社の業務に邁進し、周りの方々と共に発展していけるように努めていきたいと考えております。

(文：同社・水上寿彦氏)

ジャグラ東北地協

2.16 東北地協幹事会と地協青年部の 合同会議を開催 於 ハーネル仙台（宮城）

ジャグラ東北地協（熊谷正司会長）は、2月16日、宮城県仙台市のハーネル仙台において、幹事会および同青年部との合同会議を開催しました。

×

今回の東北地協幹事会は、各県青年部より代表者を迎え、ビジネスチャンス共有しながら若手リーダーが学んでいく地協青年部会議との併催となりました。

当日のプログラムは下記のとおりです。

①クラウドセミナー

ジャグラマーケティング委員会主催（齋藤秀勝委員長）

②地協幹事会会議（全体&各支部報告、情報交換）

③第1回東北地協青年部会議

④合同懇親会

出席支部長からは、支部リーダーの育成に役立つなら支部から継続的な物心両面のサポートをしていきたいとの声も寄せられ、実りある会議になりました。今後も東北地協の組織強化の基礎作りを進めていきたいと思っております。

（文：大橋理事）

東北地協幹事会・青年部合同会議の様子



ジャグラ奈良県支部

奈良公園の鹿と環境を守る雑貨開発のため クラウドファンディングで資金募集中！ （株）新踏社（奈良）

ジャグラ会員企業の（株）新踏社（奈良 / 安達研社長）は、このほど奈良県より、インターネットで小口資金の投資を募るクラウドファンディング活用事業者として選定されました。

×

今回、奈良県よりクラウドファンディングの開始に必要な初期費用が補助され、事業について積極的な情報発信の機会が与えられることとなります。事業概要は下記のとおりです。

◎奈良公園の鹿と環境を守るため、公園散策用の「捨てられにくい紙袋」やエコバッグ等の雑貨づくり。

◎新製品の試作・製造費用及び運営サイト構築費用を募集。

◎特典は1口につき、奈良特産の蚊帳生地を用いた鹿毛柄のあずま袋セット 4000円相当（税込）をご用意。

※あずま袋：一枚の布からでき、糸をほどこせばまた元の布に戻る、日本の包む文化を表すエコバッグ。

同社はこの2月から、県指定の運営会社であるミュージックセキュリティーズ（東京都）を通じて、投資型ファンドを設立しており、総額300万円を目標として一口2万1000円の資金を募っています。期限は8月31日まで。詳細は下記サイト（写真）をご覧ください。

<https://www.securite.jp/fund/detail/4257>



日印産連

3.29 デジタル印刷の現状と展望に関する 調査報告会に150名超の参加者 日印産連

ジャグラなど印刷関連10団体で組織する（一社）日本印刷産業連合会は、去る3月29日、「デジタル印刷の現状と展望（2017年度）」^{*}に関する調査報告会を開催しました。

×

当日は、日印産連・小野常務の開会挨拶のあと、第1部として、調査主体であるデジタルプレス推進協議会座長・郡司秀明氏（JAGAT専務理事）とCS部副部長・花房賢氏から、本年度のアンケート調査結果のまとめ報告がありました。本調査は2010年から印刷業界のデジタル印刷機の現状を定点観測しているもので、今回で8回目。調査の結果、2017年売上におけるデジタル印刷の割合は平均10.6%（昨年度9.7%）、デジタル印刷機の保有台数は



4.22台（昨年度3.86台）と微増の状況でした。

続く第2部&第3部は、郡司氏をモデレータとして、コダック、キヤノン、富士フイルム、日本HP、富士ゼロックス、リコー、SCREENの各社による報告と、5～10年後のオフセット印刷とデジタル印刷の割合がどうなるかという興味深いテーマでの熱い意見交換が行われました。

※調査報告書が日印産連HPよりダウンロードできます。
<https://www.jfpi.or.jp/topics/detail/id=3804>

Column

空中映像を電子看板や非接触UI、『現実拡張』に生かす

e-中小企業ネットマガジンVol.821より転載

我々の視覚世界は『脳の創りもの』である（渡辺正峰著『脳の意識 機械の意識』より）というように、視覚世界の奥は深い。その奥深いテーマを突き詰め、何もない空間に映像を浮かび上がらす技術を開発し新技術の実用化に邁進しているのがパリティ・イノベーションズ（京都府精華町、前川聡社長）。

活用が見込める分野はアミューズメント、医療、家電、自動車、ホテル・レストラン、公共設備…と幅広い。「仮想物体を現実世界に解き放ち、拡張現実（AR）ならぬ『現実拡張』を実現する」（前川社長）と、掲げるビジョンは壮大だ。同社はNICT（情報通信研究機構）の研究者だった前川氏が2010年12月に設立したNICT発ベンチャー。前川氏は研究員時代、画期的な光学素子「パリティミラー」を開発し、その応用による空中映像システムを学会や展示会で実演すると、どの会場でも驚きと称賛の声が上がる。たまたま、共同開発企業が一定水準の品質や大きさの試作品を作製したタイミングを捉え、起業に踏み切る。

パリティミラーとは、ナノテクの枠を集めて開発・作製した微小な2面コーナリフレクター（2枚が直角に組み合わせられた鏡）を数十万のオーダーで組み込んだ装置。10cm角程度の大きさの同装置から、現実の物体のような存在感・臨場感のある空中映像が、光の集合体（実像）として生み出される。起業から7年余り。前川社長は「精度、コスト、量産化の

各面で難題山積の状態が続き、ニワトリとタマゴのジレンマに陥ったが、ここへきて、ようやくそれらが解消しつつある。商品企画が進み、量産体制も見えてきた」と軌跡を語る。

同社の商品企画の方向性は3つ。第一が空中映像をディスプレイとして活用する道で、宙に浮かぶ不思議な映像表現は、次世代デジタル・サイネージ（電子看板）として幅広く使われると見る。第二の道は、指位置センサーなどと一体化したタッチレスUI（ユーザー・インターフェース）。手が汚れない、手で汚さない、触らないボタン・スイッチとして、手術中の医療機器の操作などによってつけとされている。第三が、ARやVR（仮想現実）に不可分のディスプレイ、ゴーグルなしで、仮想物体を現実世界に解き放つ＝実物体と空中映像を重ねて表示する「現実拡張」で、SF映画やアニメが描くような未開の市場を掘り起こす。

前川社長は「自動車、家電、アミューズメントの各業界からの問い合わせが多く、実際に製品開発が進んでいる」と近況を説明。非接触スイッチの応用製品などを順次発売する運びであるという。NICTの技術に基づく競合他社が出てきたりしている状況だが「競合の存在は結果的には市場拡大につながり当社にもプラスになる」とどしどしと構え、「5年後の上場を目指し、10年後も人々に驚きを提供し続けたい」と先々を見据えている。

月刊「グラフィックサービス」797号

●発行日 平成30年4月10日(毎月1回)
●発行人 中村 耀
●編集人 早坂 淳
●発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
TEL 03-3667-2271
FAX 03-3661-9006
WEB <https://www.jagra.or.jp/>

ジャグラは一般社団法人日本情報経
済社会推進協会指定のプライバシー
マーク指定審査機関です

●編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎原稿/編集/校正

沖 敬三 守田 輝夫 長島 安雄
酒井 玲子 並木 清乃 阿部奈津子
今田 豪 (以上、ジャグラ事務局)
斎藤 成 (東京グラフィックス/広報委員)
藤尾 泰一 (㈱インフォ・ディー/広報委員)
日経印刷(株) (校正のみ)

◎組版/デザイン (㈱インフォ・ディー)

組 版 = Adobe CS6/CC
フォント = モリサワ OTF ほか

◎印刷 日経印刷(株) (東京・千代田支部)

RIP = 大日本スクリーン Trueflow
CTP = 富士フイルム XP-1310R
東レ TWL-1160F
刷 版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX
印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P
ハイデルベルグ社 SORD
インキ = DIC

用 紙 = 三菱ニューVマット FSC-MX 菊判 62.5kg
※本誌はFSC森林認証紙(管理された森林の木から作られた紙)とベジタブルインキ(環境配慮型インキ)を用い、環境に配慮した印刷工場で生産されています。
<https://www.nik-prt.co.jp/>



Copyright 2018 JaGra / 禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です
また、原則 TM・®マークは省略しています
※乱丁/落丁本はお取り替えいたします

事務局日誌と今後のスケジュール

2018.3 事務局日誌

- 1日 日印産連情報セキュリティ部会→野田理事
- 2日 POD 部会(リコージャパン(株)、キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ(株)、日本プリンティングアカデミー卒業式)
- 5日 次年度事業推進体制打合せ→沖専務ほか
- 7日 プライバシーマーク現地審査(都内)
- 8日 次年度事業推進体制打合せ→中村会長・沖専務ほか
- 14日 プライバシーマーク審査会、日印産連ステアリング・コミッティ→中村会長、JAGAT 理事会
- 15日 日印産連専務連絡会議→沖専務、東グラ理事会→沖専務、日本プリンティングアカデミー理事会(JPA)、プライバシーマーク審査員研修
- 16日 広報委員会、プライバシーマーク現地審査(大阪)、ジャグラ文化典福岡大会実行委員会→守田常務理事
- 22日 日印産連理事会→中村会長、菅野副会長、印刷図書館理事会
- 23日 理事会、岩下副会長を祝う会
- 26日 次年度事業推進体制打合せ→沖専務ほか

2018.4 の予定(4.10 時点)

- 2日 ジャグラコンテスト専門委員会、個人情報保護ガイドライン策定 WG
- 4日 ジャグラ BB 企画部会、日本プリンティングアカデミー入学式(JPA)
- 6日 ジャグラ作品展第一次・第二次審査会
- 9日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 10日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 12日 小森会世話人総会
- 13日 ジャグラ作品展最終審査会
- 14日 日本自費出版ネットワーク理事会
- 16日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 17日 プライバシーマーク現地審査(大阪)、東グラ理事会→沖専務
- 18日 広報委員会
- 19日 定期監査
- 20日 マーケティング委員会、ジャグラコンテスト会議、理事会
- 21日 教育・技術委員会、SPACE-21 総会(コニカミノルタジャパン(株))
- 24日 プライバシーマーク現地審査(福島)
- 25日 プライバシーマーク現地審査(福島)

2018.5 の予定(4.10 時点)

- 2日 日本自費出版ネットワーク監査
- 8日 プライバシーマーク現地審査(山口)
- 10日 FACE30 周年記念式典(日本閣)
- 11日 北海道支部総会→熊谷副会長、プライバシーマーク審査員フォローアップ研修
- 12日 四国地協総会
- 15日 日本プリンティングアカデミー評議員会(JPA)、プライバシーマーク審査会
- 18日 日本自費出版ネットワーク全国大会(広島)、関東地協総会
- 19日 中国地協総会(岡山)
- 23日 日印産連理事会、東グラ定時総会(日本教育会館)
- 24日 印刷インキ工業会創立70周年記念式典(パレスホテル東京)
- 25日 愛知県支部総会(中日パレス)→中村会長、運営基盤戦略会議(中止)
- 31日 ジャグラ文化典福岡大会司会者打合わせ

■ご案内 最新スケジュールはHPでご案内!

ジャグラ関係の会議などのイベント日程の最新情報は、公式ホームページにてご案内しています(<https://www.jagra.or.jp/events/>)。Google カレンダーと連動していますので、ご自身のスマホに日程を取り込むことができ大変便利です。ぜひご利用ください。



【お詫び】 本号「業界の動き」に掲載した「東北地協幹事会・青年部合同会議を開催」は、大橋理事より3月号に十分間に合うように原稿を頂戴していましたが、1か月遅れの掲載となりました。関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

今月のおすすめ番組

最新情報はWebでチェック! <https://www.jagrabb.net>



【働き方改革】松岡勇樹氏特別講演「国東時間」と「ものづくり」

Next-Oita主催セミナー。廃校となった大分県国東市の小学校を拠点にペーパークラフトキットを国内外へ出荷する株式会社代表・松岡勇樹氏を講師に招き、地方ならではの働き方についてお話を伺いました。(時間:1時間24分/会員限定番組)



【シリーズ】インサツノオト。No.01 ハイデルベルグ プラテン印刷機

新シリーズ「インサツノオト。」印刷会社のさまざまな「音」をお届けするこの番組。記念すべき第1回は、ハイデルベルグ社のプラテン活版印刷機の音をお届けいたします。協力:江戸堀印刷所様(大阪府大阪市)(時間:1分42秒/無料配信)



新社会人 ビジネスマナー教室(全3巻)

本番組では、新入社員の研修や関連講演に実績のある桜井淳講師を迎え、ミニドラマを交えたケーススタディで、社会人への第一歩に必要なビジネスマナーの基本をわかりやすく解説します。(時間:各巻28~50分/無料配信)



【シリーズ】知らないと損をするWordの仕事術 No.01~08

オフィスワークに欠かせないWordについて、仕事の効率アップにつながるテクニックを紹介する新シリーズが登場! 最新巻のNo.8では起動時に白紙ドキュメントを表示させる方法を解説します。(時間:各巻2~5分/会員限定番組)



映像で学ぶ印刷のすべて【基礎編】【各論】(全38巻)

新入社員から中堅社員までを対象に、映像で印刷業界のすべてがわかる「印刷大全」。1番組あたり15分から30分程度の内容にまとめているので、必要な部分だけを抜き出して見ることができます。(時間:各巻15~30分/会員限定番組)



【シリーズ】知らないと損をするExcelの仕事術 No.01~10

DTPソフトは使いこなしているけれど、Excelは基本機能しか知らない...そんなDTPオペレーター必見の新番組が登場! 仕事で即使えるExcelテクニックを影山史枝講師が伝授します。(時間:各巻2~10分/会員限定番組)

動画募集のご案内

ジャグラBBでは「ワザコレ!」「インサツノオト。」で配信する投稿映像を募集しています。自社で編み出した仕事の裏ワザ、自慢の印刷機を動画で紹介してみませんか? 採用された方には1000円相当の商品券を進呈します。

ワザコレ! 動画応募方法

簡単な内容説明、動画の長さ(撮影編集済の場合)をご記入の上、ジャグラBB企画部会までメールでご連絡ください。追って担当者よりご連絡します。
応募先メールアドレス: jagrabb@jagra.or.jp

スマホで撮影した動画も受け付けます!



スマホで簡単登録&視聴! ジャグラBB 新規ID登録はこちらから
https://www.jagrabb.net/app_mail.php

